

# チェルノブイリ通信

<https://www.cher9.org/>

NPO法人  
チェルノブイリ医療支援ネットワーク  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F  
TEL/FAX: 092-260-3989  
E-mail: jimmu@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク (CMN) は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.

117

## 特集 2019年度ベラルーシ訪問レポート

CONTENTS チェルノブイリ被災者支援の更なるネットワーク構築へ向けて / ご寄付のお礼～古本募金きしゃぼん～ / 活動報告～和白干潟まつりに参加～ / 新たな体制で臨んだベラルーシ訪問 / コラム ベラルーシの一日 / 支援者のお名前とメッセージ



「こんにちは。はじめまして」と日本語で挨拶してくれたソーニャさん（左）とアーニャさん（右）。ミンスクにて

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？  
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座	01770-1-65328
	他の金融機関からは 一七九支店（当）65328
楽天銀行	ジャズ支店（支店番号201）（普）7017104
住信SBIネット銀行	法人第一支店（支店番号106）（普）1030416
※口座名はいずれも「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」	

# チエルノブイリ被災者支援の 更なるネットワーク構築へ向けて

チエルノブイリ医療支援ネットワーク  
理事、事務局長  
川原 秀之



9月14日(土)～10月1日(火)までの18日間、ベラルーシを訪問し、ミンスク州、ブレスト州、ゴメリ州にて、現地医療関係者らとの協議、支援物資の贈呈、調査や取材などを行いました。現地訪問の様子について報告いたします。

## ■訪問の目的

今回の訪問団には、木村真三先生(獨協医科大学准教授)と、チエルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)から和田、三島、川原が参加し、現地にて通訳の田中仁さんを加えた計5名のメンバーでした。これまでの現地訪問に毎回参加され、チエルノブイリ被災者支援に尽力されてきた故・山田英雄さん不在での初の訪問団となりました。

今回の訪問では、これまで山田さんとも培ってきた現地関係者との協力体制を今後も継続し、さらに発展させていくことを目的に、改めて現地関係者との協議を行いました。

また今後の事業として、これまでの支援の成果や原発事故から30年以上経った被災地の現状を体感していただくスタディツアーを検討しており、その下見をすることもねらいの一つとして位置づけました。

## ■首都ミンスクでの調査、打合せ

9月14日(土)、成田～モスクワ～ミンスクと空路で移動し、翌15日(日)から本格的な活動がスタート。最初の二日間はミンスク市内で観光、調査を行いました。晴天の下、市民マラソン大会が開催されていた日曜日のミンスク市内には、沿道に多くの人が集まり活気に溢れていました。田中さんのコラムでも登場した聖シモン・聖エレナ教会、長崎の鐘、仙台公園や旧市街周辺、 Gum百貨店などを散策。移動には徒歩のほか、バスや路面電車、地下鉄などを利用し、現地の生活、文化の一端に触れることができました。

夕方には地下鉄で郊外へ移動し、昨年5月に来日されたリュドミラ・ウクラインカ(愛称リュダ)さんとの再会を果たしました。ご自宅での夕食(招いていただき、ボルシチやシャシリク(肉の串焼き)といった美味しい手料理に舌鼓を打ち、また来年計画しているリュダさんと娘のアンナさんの来日講演会について打合せを行いました。14歳になったアンナさんはすでにリュダさんよりも背が高くなってい



ピンスク地区での移動検診。穿刺吸引を行うマリナ医師(左)

ました。これまでではどちらかというと内気な印象を抱いていましたが、今回はご自宅にいらることもあつてか、とても明るい様子でした。

## ■日本大使館、ベラルーシ赤十字訪問

17日(火)午前中は日本大使館、ベラルーシ赤十字を訪問しました。大使館では、今回の訪問団の行程について説明した他、来年度予定しているリユードさん、アンナさんの招聘手続き、外務省ODA「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を活用したブレ

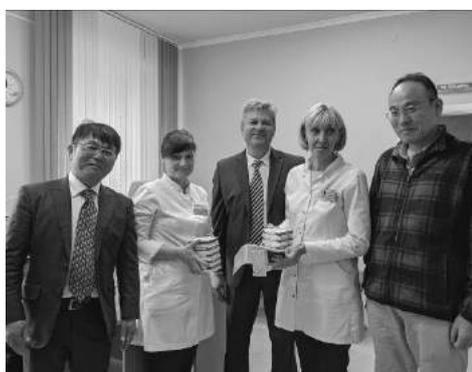


右上) ライトアップされたミンスクの街並み / 右下) ベラルーシ赤十字にて  
左) リユードさん宅にて。ビクトルさん(中央)のコレクションについて説明するアンナさん(左)

スト州立内分秘診療所への医療機材の整備等についての情報共有、意見交換を行いました。

ベラルーシ赤十字ではオリガ事務総長やスタッフの方々と会談。木村先生から原発事故後の福島状況についてご説明いただき、今後の支援に関する連携の可能性について協議しました。

赤十字を退去し、コマロフスキー市場を散策して昼食を終え、鉄道でミンスクからブレストへと移動しました。一人当たりの運賃は特急券込みで日本円に換算すると約700円、ブレストまで途中停車のない便だったため所要時間は3時間少々でした。この鉄道はすべて予約制となっていて、発車後に乗務員さんが切符の確認を行う仕組みになっています。そのため見送りや出迎えに来た人々も駅のホームで待つことができます。



ブレスト州立内分秘診療所へ支援物資を贈呈



移動検診車購入手続きに関する打合せ

## ■ブレスト市での活動

18日(水)〜21日(土)まではブレスト州の州都ブレスト市に滞在し、関係諸機関を訪問しました。初日はまずブレスト州立内分秘診療所へ赴き、アルツール所長と今後の打合せ、支援物資の贈呈等を行いました。今回ブレストでは、この後に控える移動検診チームへの同行取材や移動検診車購入に向けた手続き、関係諸機関への訪問、甲狀腺摘出手術を受けた患者さんへのインタビューなど、やるべきことが多々ありました。しかしアルツール所長をはじめ現地関係者の方々の準備・協力によって、無事にすべての業務を滞りなく遂行できました。また観光の時間もあり、今年創立千年祭を迎えたばかりのブレストの街々を見て回る有意義なひと時を過ごすこともできました。

患者さんへのインタビューでは、地方での検診から戻られた移動検診室長のウラジミール(愛称ヴァロージャ)先生同席のもと、計8名の方にお話を伺うことができました。また、後日訪れたピンスク市でも計7名の方へのインタビューを実施しました。いずれも事前にヴァロージャ先生よりインタビューの趣旨や我々の活動について説明していただいたこともあり、どなたもリラックスされた様子で腫瘍が見つかった時の状況、術前、術後の経緯、当時と現

在の心境等を詳しく話してくださいました。

またこれまでに何度も現地を訪問され、甲状腺がん検診や内視鏡手術の普及に尽力されている金地病院名誉院長の清水一雄先生よりご寄付いただいた甲状腺内視鏡手術の器具一式をブレスト州立病院へ贈呈しました。アレクサンドル院長や現地で内視鏡手術を行うイーゴル

医師からは「感謝の言葉もありま

せん。これまでの長きにわたる皆さんとの協力関係の中で、ブレストでも甲状腺内視鏡手術ができるようになりました。今回寄贈していただいた器具を活用し、甲状腺だけでなく色々な手術の症例を増やしていきたいです」といった言葉をいただきました。

### ■移動検診チーム同行への同行

23日(月)～25日(水)までの3日間は、ブレスト州の移動検診チームに同行しました。メンバーはヴァロージャ先生のほか、マリーナ先生、オリガ先生、ドライバーのユーリさん、ビクトルさんという顔ぶれでした。今回の検診の目的地は、ブレスト市から約180キロの距離にあるピンスク市です。同市はブレスト州第2の都市であり、国内でも10番目に大きな街です。検診に必要な機材一式を積載し、まずはピンスク市街地にあるピンスク中央病院を訪問しまし



ブレスト州立病院へ手術器具を贈呈  
(写真左がアレクサンドル院長)



甲状腺摘出手術経験者へのインタビュー

た。内科を専門とする同病院には小児と成人とで別々の病棟(入院施設も有)があり、甲状腺や糖尿病などの治療が行われています。外科的治療が必要となった場合はブレスト市や首都ピンスクで治療を受ける仕組みになっているということです。なお甲状腺検査に関しては、異常を早期に見つけるようにホルモン検査やエコー検査のシステムが整備されており、幼稚園に通う3歳時、小学校に入学する6歳時と卒業する10歳時(※4年生までが小学校、5～9年生までが中学校)に全児童への検診が実施され、食事のアドバイスなどもあわせて行っているとのことでした。

今回の移動検診は、ピンスク市から車で約40分の距離にあるロギーシ市立病院・ピンスク中央病院第一分室で行われました。問診および血液検査とエコー検査とで二つに部屋を分け、地元住民や病院の

## 今回の主な訪問先

### <ミンスク>

- ベラルーシ赤十字
- ミンスク十番病院
- 日本大使館
- ベラルーシ国立大学
- 日本文化情報センター

### <ゴメリ>

- 福祉工房「のぞみ21」

### <ブレスト>

- ブレスト州立内分泌診療所
- ブレスト州立病院
- ブレスト州立公衆衛生疫学センター
- 国立自然公園「ベラヴェジの森」
- ピンスク中央病院
- ロギーシ市立病院
- ピンスク中央病院第一分室



日本大使館



公衆衛生疫学センター



地元の医療スタッフのサポートも加わり、3日間の移動検診は、朝早くから夕方まで続いた。若者から高齢者まで様々な世代の住民が検査に訪れ、検査室のドアの向こうには長蛇の列ができていた  
 検診2日目には、ヴァロージャ先生とともに一旦ピンスク中央病院へ戻り、地元メディアの取材に対応

職員など、計3日間で約180名の検査が実施されました。最終日の午後には、今回の検診で異常が確認された6名に対し、別室で穿刺吸引細胞診（細胞の採取）が行われました。

### ■がんの早期発見につながる移動検診の強み

「移動検診のメリットは、穿刺吸引細胞診が必要な患者が見つかった場合に、その場で処置ができ、早期発見・早期治療につながるからだ」とヴァロージャ先生は力説します。仮にピンスク中央病院における通常の検査で甲状腺に何らかの異常が見つかり、穿刺吸引細胞診が必要となった場合には、ブレスト州立内分泌診療所まで行かなければなりません。日によって穿刺吸引細胞診をしていないこともあるため、長いときは1ヶ月以上待たなければならぬケースもあるそうです。移動検診システムは、こうした問題を解消する仕組みといえます。

また今回検診の現場を見学して感じたのは、移動検診チームメンバーの真摯な姿勢です。特にゴウ検査と穿刺吸引細胞診を担当されたマリーナ先生が、患者一人ひとりに対して笑顔を交えて丁寧に状態を説明されている姿が印象的でした。チーム全体としても、会場の設営から検査まで各自が与えられた役割を全うし、きびきびと動いている様子が伝わってきました。

### 今回現地へ届けた支援物資

#### <ブレスト州立内分泌診療所>

- 甲状腺がん検診用の試薬、器具  
 (武藤化学株式会社さまより寄贈)

#### <ブレスト州立病院>

- 内視鏡手術用器具一式  
 (清水一雄先生より寄贈)

#### <福祉工房 のぞみ21>

- 活動支援金：400ドル
- 商品仕入れ：952ドル



### ■アリョーシャさんの再会

移動検診同行の最終日は、日中に一旦ピンスク市内へ戻り、アリョーシャさん宅を訪問しました。アリョーシャさんはチエルノブイリ原発事故が起きたときに母親の胎内で被曝。2006年、ブレスト市での検診で甲状腺がんが見つかり、翌年2月に来日され、清水一雄先生の執刀のもと、内視鏡による甲状腺摘出手術が行われました。アリョーシャさんは現在、パートナーのアンドレさんと息子のフィリップちゃんとピンスク市内で暮らしています。アンドレさんは仕事で、来年小学生となるフィリップくんは「恥ずかしいから」という理由で幼稚園に行ってしま



清水先生からのメッセージ動画を見つめるアリョーシャさん



ラリーサ先生からは、これまでの支援に対する感謝の言葉をいただいた



縫製を担当する「のぞみ21」スタッフのアレーシャさん



会計担当のタチアナさんと息子のヤロスラフくん

い、残念ながら会えずじまいでした。

ただアリョーシャさんからは嬉しいニュースを聞くことができました。彼女は現在二人目のお子さんを妊娠中で、今年11月に出産予定とのことでした。すでに安定期に入っており、「性別は女の子。でも名前はまだ決めていない」と穏やかな笑顔で話してくれました。

3日間の移動検診を終えた一行は、翌26日(木)の早朝にブレスト市内へ帰還。午前中に再度ブレスト州立内分秘診療所を訪問し、担当職員らと移動検診車購入に向けた手続きの最終確認を終えた後、午後の列車でミンスクへと旅立ちました。

### ■ミンスク十番病院訪問

27日(金)はミンスク十番病院を訪問し、ベラルーシ共和国立卒業後教育医学アカデミーのラリーサ先生、マキシム先生らと会談しました。ラリーサ先生

からは来年4月に開催予定のベラルーシ内分秘学60周年学会に関するご案内がありました。その中でこれまでの支援活動について紹介したいとのこと提案があり、実現に向け準備を進めていくこととなりました。

また十番病院内で行われていた内分秘科医向けの講義(前述の医学アカデミーの研修プログラムとして実施されていたもの)にも参加させていただき、急きよ木村先生から受講者向けに福島の現状について説明していただく機会も設けられました。

### ■のぞみ21、かつての工房を訪ねて

十番病院を退去し、訪問団一行は再び鉄道に乗ってベラルーシ南部のゴメリ市へと向かいました。ゴメリ訪問の目的は、原発事故の被災者や障がい者が働く福祉工房「のぞみ21」への取材と商品の買い付けです。現在は工房がなく、スタッフが各家庭で作業を

行う形になっています。今回の我々の訪問に合わせ、代表のナターシャさん、会計担当のタチアナさんらは、のぞみ21とCMNとの友好20周年を記念した集いの場を用意してくださっていました。28日(土)、かつて工房として使用していた建物の一室を一日だけ借りて、のぞみ21スタッフの皆さんやご家族の方も交え、ささやかな昼食会が開催され、交流を深めることができました。ナターシャさんやスタッフの皆さんへのインタビューについては、次号の会報でお伝えしたいと考えています。

全ての予定を終え、29日(日)にミンスクへと戻り、翌30日(月)に日本へ向けて出発。18日間にとたる長い旅の幕を下ろしました。

### ■訪問を終えて

過去のベラルーシ訪問では、現地関係者との打合せは全て山田さんを中心に動いていただいていた

た。そのため今回は、私が本業の合間にその役割を担うことになったのですが、正直言って戸惑うことばかりでした。しかし今回一緒に一緒にいただいた木村先生や通訳の田中さんをはじめ、多くの方々の協力を得て無事に出発を迎えることができ、そして18日間の日程も終えることができました。

現地では行く先々で山田さんへのお悔やみの言葉を耳にし、改めて失った協力者の尊大さを実感しました。しかしベラルーシ赤十字のオリガ事務総長、またアルツール先生やラリーサ先生らとこれからの支援活動について話し合い、今後もこれまでと変わらない協力関係を維持できたことについて、山田さんもきつと喜んでくださっていると思います。

今後の継続的な活動に向け、私たちもまだ勉強不足なことが多々あります。また、やらなければならないことも山積しており、一步一步できることからやっつけていこうと思います。

どうかこれからも私たちの活動を変わずご支援くださいますよう、よろしくお願ひいたします。



ご支援・ご協力をありがとうございます！

## 読

読み終えた本やCD、DVDなどで募金ができる「古本募金きしゃぽん」を通じて、たくさんのご寄付をお寄せいただいております。誠にありがとうございます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします！

## 皆

さまから寄せられたメッセージ（抜粋）

- 読みためた本たち、少しでも活かしてもらえたら嬉しいです。
- 笑顔が増えますように。
- 原発を止めることが一番なのですが、とりあえずできる事を少しでもおもいます。
- これからも支援いたします。がんばりましょう。
- こんな取り組みがあってありがたいです。
- ほんの少しでも、役に立てると嬉しいです。
- 私のできる範囲で支援したいと思っています。何かの力になれますように。
- 不要になった本が少しでもお役に立てばと思います。
- 少しでも早く適切な医療が受けられるように、私たちにできることは協力したいです。

## 古本募金 きしゃぽん



◀ これまでにお寄せいただいた寄付額 ▶

**606,783円 (191名)**

- ◆2017年1月～12月 **78,612円 (35名)**
- ◆2018年1月～12月 **139,795円 (70名)**
- ◆2019年1月～10月 **388,376円 (86名)**

あなたのご自宅や職場に眠るお宝が  
チェルノブイリ支援につながります



※貴金属・ブランド品は壊れていても構いません。  
※取扱い品についての詳細は同封のチラシをご覧ください！

# 新たな体制で臨んだベラルーシ訪問

チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事

和田 幸策



移動検診車購入の調印手続き（フレスト州立内分泌診療所にて）

## ■初めてのベラルーシ訪問

今回、初めてベラルーシを訪れることができました。故・山田英雄さんは「できるだけたくさんの人にベラルーシに行ってもらって、現地の医療や人々の生活について知ってほしい」と幾度も力説され、我々理事に対しても「来年は一緒に行こうや」と誘いをかけるのが口癖でした。

今回の訪問に山田さんの姿はありませんでしたが、私たちはその意志を受け継ぎ、託された医療支援に全力で取り組んでいく所存です。

## ■ミンスクでの活動

成田国際空港を出発した9月14日（土）の夜にミンスク国立空港に到着し、迎えにきてくれたベラルーシ赤十字のサーシャさんが運転する車でミンスク市に向かいました。市内に入ると建物群はライトアップされ、整然とした街並みは美しく、実際に大通りを歩いてみると歩道も広く清潔で、とても良い印象を持ちました。

翌15日（日）は、田中さんの案内でミンスク市フルゼンスキ地区にあるニコライ堂（日本にロシア正教を伝道した聖ニコライを記念して建築された教会）を訪ね、以前より親交のあったチホン・モギリンくんのご家族に面会しました。母親のナターリアさんはウクライナ出身の方で、チホンくん、アンゲリーナちゃん、ペロニカちゃんのお子さんがいらっしやいます。末妹のペロニカちゃんは左半身麻痺の障がいを持っています。ナターリアさんからは今年ペロニカちゃんと参加する保養プログラムやナターリアさんの甲状腺検査な

どについてお話を伺うことができました。

その後、木村先生と合流して、昨年、福島、東京、広島、福岡で講演してくださったリユードミラ・ウクライナ（リユード）さんのご自宅を訪問しました。訪問の目的は来年に福島と福岡で予定しているリユードさんの講演会の打ち合わせでした。特に福島では、結婚や出産、日々の生活に関する不安や疑問に対する質問が多くあり、来年の講演会ではリユードさんの娘アンナさんにも同行してもらうことになっているので、アンナさんも交えての打ち合わせになりました。

打ち合わせ後は、リユードさんのご両親ビクトルさん、マリアさんをご交えて夕食をご馳走になりました。日本やベラルーシのこと、医療支援についてなど話題は尽きず、楽しく有意義なひと時を過ごしました。

16日（月）は、ベラルーシ国立大学ジャーナリズム学部の図書館で、支援者の方々からいただいた質問依頼の調査を行いました。主な調査内容

は、①ベラルーシで建設中の原子力発電所(リトアニア国境地域・ベラルーシでは初の原発)の現状、②ベラルーシのエネルギー事情(現在は火力・水力・風力・太陽光発電が主なエネルギー源)、③人口の推移(出生率・死亡率)等です。新聞やインターネットで可能な限り過去までさかのぼって調べ、国家統計委員会、エネルギー使用統計本・人口統計年鑑で現状の把握ができました。今回長時間に及ぶ調査に協力してくださったスタッフの方々は私たちの申し出にも快く応じてくださり、とても感謝しています。



ベラルーシ国立大学での情報収集

## ■プレストでの活動

9月18日(水)の午前中にプレスト州立内分診診療所を訪問し、新たに購入する移動検診車「雪だるま号」の維持・管理に関してアルツール所長らと契約内容を確認しました。以前にベラルーシ赤十字へ寄贈した2台に続き、「雪だるま号」は今回で3台目となります。

午後からは「雪だるま号」の購入資金の支援としてCMNとプレスト州立内分診診療所の間で対外無償資金援助の契約書に双方の署名・捺印が行われ正式な契約となりました。アルツール所長も大変喜ばれており、寄付者の方々のあたたかいこ



現地メディアからの取材対応

支援が形になった瞬間でした。また、この契約の様子はベラルーシの通信社「ベルタ」の取材を受けた中で行われており、契約後のインタビューではCMNの歴史や支援活動の内容、これからの医療支援の展開などをお話ししました。この取材の様子は、当日の夕方にはラジオやネットニュースで流れていました。

19日(木)はスタディツアーの視察も兼ねて観光名所の一つであるプレスト要塞に行きました。プレスト市はポーランドとの国境にある町で、ここプレスト要塞は第二次世界大戦でナチス・ドイツ軍の侵攻を受けた場所です。要塞内には巨大な人型



プレスト要塞

のモニュメントがそびえ立ち、レンガ作りの城門や兵舎はドイツ軍の攻撃を受けたままの状態が残っています。戦争の生々しさを現代の私たちに伝えている重要な場所に思えました。

## ■終わりに

ベラルーシ訪問の前半部を報告させていただきましたが、今後の様々な課題への取り組みや医療支援活動を多くの方に知ってもらうためにも、CMNが果たす役割は大事なものになっていき、それが支援の輪を広げ未来に繋がるものと思います。

## Парк культуры и отдыха имени Челюскинцев



▲園内のアトラクション

公園の入口▶



### 《チェリユスキンツェフ公園》

最寄りの地下鉄駅も同じ名称の公園で、1932年にメインストリートの《プロスペクト・ネザヴィシモスチ(独立通り)》沿いに開園しました。78ヘクタールの園内には、多くの木々に囲まれた静かな道やアトラクションが設置された遊園地があり、大人から子どもまで幅広い年齢層の人が訪れます。

## Ботанический сад



◀植物園の入口



▲水面に浮かぶ白鳥



▲園の中央

### 《ミンスク中央植物園》

チェリユスキンツェフ公園に隣接する植物園で、同じく1932年にオープンしました。入場は8ルーブル(400円少々)で、学校の遠足地や観光名所、また生物学等の研究者達に愛される場所として有名です。およそ150ヘクタールの敷地内に約10000種類の植物、美しいフラワーロードを歩いて奥に進んで行くと、白鳥の湖が広がります。湖に囲まれた中心の小島には白鳥も日光浴をしに上がってきます。

田中仁の連載コラム

10月日より

秋晴れの散策スポット

10月の三週目、小春日和が来たミンスクから散策スポットのご紹介です。最高気温が20度近くまで上がった爽やかな秋晴れの中、街の中心部に並ぶ公園を訪れていきます。



田中仁(たなかひとし)

ベラルーシ国立大学在学中から、フリーランスのジャーナリスト、通訳として国内外の新聞や雑誌で活躍中。ミンスク在住。

## Центральный детский парк им. М. Горького

### 《ゴーリキー公園》

1805年創設の古い歴史を持つ公園です。植物園があった場所までは独立通り沿いにつながっています(地下鉄で3駅、徒歩で30分)。面積は28ヘクタール程ですが、中心地に位置しており、常に多くの人を訪れます。園内には60種類の木々に囲まれた並木道や子どもの遊び場、またプラネタリウムや大観覧車(右写真)もあり、多目的で楽しめます。



## Парк имени Янки Купалы



◀ 並木道



◀ 博物館

### 《ヤンカ・クパーラ公園》

ゴーリキー公園の向かい側に位置しています。有名なベラルーシの詩人・作家ヤンカ・クパーラに敬意を表して1950年に造られた公園です。入口付近からは独立通りの道路を挟んでサーカス場が見えており、園内にはヤンカ・クパーラ氏が残した書物等が展示されている博物館があり、その先を流れるスヴィスロチ川を越えて行くとオペラ劇場があります。芸術に彩られた雰囲気を持つこの公園では野生のリスを見かける機会もあります。

## Комсомольское озеро



### 《コムソモリスコエ湖》

オペラ劇場の近くを流れるスヴィスロチ川沿いに街の中心に戻ってきて、さらに水の流れる方へとずっと歩いて行くと(バスで5分、徒歩30分)。この水域一帯にたどり着きます。川沿いに幅400メートル・長さ1.5km続く散歩コースがあり、青い水辺には黄色く染まった森林が広がります。その中をゆっくりと歩いたり、座って読書をしたりする人たちの目の当たりにする時、まさに黄金の秋の訪れを感じます。

▲穏やかな時間の流れを感じる黄金色の散歩道

★団体ウェブサイト上に田中さんのコラム「ミンスクの一日」として、カラー写真とともに今回の記事も掲載しています。どうぞご覧ください★

# たくさんのご支援を ありがとうございます

(順不同・敬称略)

合計 327,634円

- \*活動支援金 277,634円
- \*のぞみ21カンパ 4,000円
- \*雪だるま3号カンパ 0円
- \*東日本支援カンパ 19,000円
- \*おまかせカンパ 27,000円

(2019年10月～11月分の寄付内訳)

## ●口座受付寄付

石橋啓子 小野直子 梶原孝子 佐々木悦子 佐藤和子 佐藤久美 里見照子 澤野重男 渋谷けい子 関根敏子 高橋武三 竹下拓子 珍部千鳥 中島乃婦子 中丸茂子 中丸直見 長棟かおる 原良隆 深田俊江 福山知恵子 古本募金 きしやぼん(運営:嵯峨野株式会社) 和田伸夫 渡辺絹子

## 「都道府県別」

- 【福島県】1名 【東京都】2名 【長野県】1名 【静岡県】2名
- 【愛知県】1名 【大阪府】2名 【兵庫県】4名 【島根県】1名
- 【広島県】6名 【山口県】4名 【福岡県】33名 【佐賀県】1名
- 【長崎県】1名 【熊本県】3名 【大分県】2名 【宮崎県】6名
- 【鹿児島県】3名

計74名(匿名含む)

※通信のお名前掲載をご承諾いただいた方のみ、お名前を掲載させていただきます。

## ●月々の定額寄付(マンスリーサポーターの皆さま)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 内野千鶴子 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 網脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子 渡邊真志子

計119名(匿名含む)

貴重なご寄付をお寄せいただき、どうもありがとうございます。また前号の会報発送後、コーヒー、紅茶、ハーブティーの注文をたくさんいただきました。厚くお礼申し上げます。

皆さまよりお預かりしたご寄付は、チエルノブイリ被災者医療支援、福祉工房のぞみ21支援、移動検診車雪だるま3号購入の積立、東日本震災被災者支援、事務費用等にあってさせていただきます。

## 皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●通信を毎号興味深く読ませていただいています。福島の状態を思うと胸がふさがれます。これから寒さがきびしくなりますが、職員の皆様のご健康をお祈りしています。●いつもありがとうございます。●少しでもお役に立てば幸いです。●コーヒーありがとうございます。●コースター、ウエルカムカードもありがとうございました。報告もたのしみしています。●長い間の積み重ねがありふれたお知らせ、こちらまでうれしく思います。●ヒロシマに住んでいる者として、できることをさがしていきたいです。●チエルノブイリ同様に福島にも支援の輪を広げられないものか、国内のことであるのに未だにタブー視されていることがもどかしいです。少しでもお役に立てれば嬉しいです。●日本国からチエルノブイリの方々を想います。今回は紅茶でカンパ少々追加します。●これからも支援いたします。がんばりましょう。●この支援の和がますます広がりますように。●ハーブティーはティーバッグでなく、リーフがよいですね。とても美味しく香りと味を楽しみながら、あのチエルノブイリの事件その後を思い巡らします。今後もつながりたいと思います。

## お知らせとお願い

**振込** 用紙は毎号同封しています。これも「思い立った時にいつでも振り込みできるように、毎号同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処分をお願いいたします。

## 集記 編後

今年で7回目のベラルーシ共和国訪問でした。最初は戸惑うことも多かったのですが、訪問するたびに少しずつ理解できるようになりました。また、理解しないといけないと思っている私がいいます。前回から早い発行は嬉しいかぎりです。(H・K)

活動の様子や通信バックナンバーなどはホームページをチェック!

チエルノブイリ 医療支援

検索

地球にやさしい再生紙と大豆インクを使用しています